

第 4 期計画 答申案・修正案

○答申①

ユニバーサルデザインの視点は、芸術文化ホールに限らず、他の施設の環境整備においても持つ必要があることから、適切な表現に改める必要がある。

◆加藤委員

方策 1-2 の記載について、「芸術文化ホールが」との記載に違和感がある。ほかの施設も入れた意味合いに変更したかどうか。

修正案(資料3 13ページ)

旧	方策 1-2 ユニバーサルデザインの視点を取り入れた環境の整備 芸術文化ホールがすべての人にとって利用しやすい施設となるよう、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた環境の整備を継続して進めます。
新	方策 1-2 ユニバーサルデザインの視点を取り入れた環境の整備 <u>芸術文化ホールをはじめとする市内の文化施設が</u> 、すべての人にとって利用しやすい施設となるよう、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた環境の整備を継続して進めます。

○答申②

市の文化力を高めるためには、活動者同士との横のつながりを創出し、互いに協力しあうことが重要であることから、これに対応した方策を具体的に記載する必要がある。

◆服部委員

文化は、人と人とのつながりが大切。活動者同士の横のつながりができるよう支援やあっせんをしてほしい。まずは居場所づくりなどとしてはどうか。

◆小林委員

地域力・人間力の向上には、市の環境整備だけでなく、市内各団体自身が「市の文化をどう高めていこうか」という意識改革をし、お互いに協力することが必要。

修正案(資料3 13ページ)

旧	方策 1-3 市民の自発的かつ主体的な文化芸術活動への支援 市民の自発的かつ主体的な文化芸術活動を促進するため、個々の状況に応じて、相談や創造、発表の機会及び場の提供等の支援を行います。
新	方策 1-3 市民の自発的かつ主体的な文化芸術活動への支援 市民の自発的かつ主体的な文化芸術活動を促進するため、個々の状況に応じて、相談や創造、発表の機会及び場の提供等の支援を行います。 <u>また、文化芸術団体が、お互いに刺激し合うことで活動が活発になるよう、団体間の交流を推進します。</u>

○答申③

デジタル技術を活用して地域の歴史や文化を知することは、日頃からデジタルに親しんでいる子どもたちにとっては有効な取組になると思われるため、こうした視点も含んだ表現とすることが望ましい。

◆井上委員

子どもたちはデジタルに親しんでいる世代。地域の歴史・文化とデジタルとの融合を積極的に進めてほしい。

修正案(資料3 15ページ)

旧	方策 2-3 地域の歴史・文化を知り、学べる機会の充実 歴史文化施設などにおいて、かつての大和の暮らしぶりや年中行事の再現、和紙・機織り・味噌などの伝統的なモノ作りの実演や体験を実施するなど、地域の歴史・文化を知り、楽しみながら学べる機会を充実します。
新	方策 2-3 地域の歴史・文化を知り、学べる機会の充実 歴史文化施設などにおいて、かつての大和の暮らしぶりや年中行事の再現、和紙・機織り・味噌などの伝統的なモノ作りの実演や体験、 <u>デジタル技術を活用した歴史スポット巡りを実施</u> するなど、地域の歴史・文化を知り、楽しみながら学べる機会を充実します。

○答申④

サポート組織の活動を実効性のあるものとするためには、教育委員会の協力が不可欠となることから、これを表した記述をすることが望ましい。

◆小須田委員

文化団体が学校に出向き、芸術や伝統文化を披露したり教えたりすることで、子どもが文化に親しめる機会を作れるとよい。文化振興課と教育委員会が連携してほしい。

修正案(資料3 17ページ)

旧	方策 3-2 子どもの文化芸術活動をサポートする組織の支援 子どもたちの文化芸術に対する興味、関心を効果的に引き出すために、様々なジャンルにおいて、子どもの文化芸術活動をサポートする組織を支援します。
新	方策 3-2 子どもの文化芸術活動をサポートする組織の支援 子どもたちの文化芸術に対する興味、関心を効果的に引き出すために、 <u>必要に応じて教育委員会と連携を図りつつ、</u> 様々なジャンルにおいて、子どもの文化芸術活動をサポートする組織を支援します。

○答申⑤

大和の文化芸術の魅力を一層アピールしていくためには、観光や景観分野との連携だけでなく、市民の興味、関心の高いスポーツや健康などの分野との連携も視野に入れることが重要であり、これをイメージした表記とする必要がある。

◆明吉委員

スポーツ等、様々な分野と連携してほしい。

○答申⑥

文化創造拠点シリウスは、全国に誇れる文化施設であり、引き続き大切にしてい
く思いを込め、発信の中心拠点であることを改めて計画に示していくことが望まし
い。

◆篠原委員

シリウスを起点に文化芸術の輪を広げてほしい。

修正案(資料3 20・21ページ)

旧	施策目標 5 大和の文化芸術の魅力を内外にアピールする 市民はもとより、市外の人にも大和の文化芸術の良さを感じてもらえるよう、観光や景観の施策とも連携を図りながら、その魅力を内外にアピールしていくための取り組みを進めます。 方策 5-3 文化芸術の魅力の一体的な発信 文化芸術の力で人とまちを元気にすることを目的とした、「YAMATO ART100」を継続して実施するなど、大和の文化芸術の魅力を一体的に発信します。また、芸術文化ホールを主会場とした「やまと芸術祭」を実施し、指定管理者とともに、様々な文化芸術イベントを集中的に開催します。
新	施策目標 5 大和の文化芸術の魅力を内外にアピールする 市民はもとより、市外の人にも大和の文化芸術の良さを感じてもらえるよう、<u>観光や景観、スポーツ、健康など様々な分野との連携を図りながら、文化創造拠点シリウスを起点として、多彩な魅力を内外にアピールしていくための取り組みを進めます。</u> 方策 5-3 文化芸術の魅力の一体的な発信 文化芸術の力で人とまちを元気にすることを目的とした、「YAMATO ART100」の<u>実施や文化芸術と他分野との連携イベントの推進</u>など、大和の文化芸術の魅力を一体的に発信します。また、芸術文化ホールを主会場とした「やまと芸術祭」を実施し、指定管理者とともに、様々な文化芸術イベントを集中的に開催します。

○答申⑦

文化芸術の振興を効果的に推進していくためには、定量的な評価だけでなく、定性的な評価も行う必要があることから、これを明記する必要がある。

◆橋本委員

特に文化芸術は、定量的な評価だけでなく、定性的な評価も必要かもしれない。

修正案(資料3 26ページ)

旧	モニタリング（計画の進行管理） 本計画では、「PDCAサイクル」の考え方に基づいた進行管理を基本とします。具体的には、施策目標の達成のために特に重要となる指標をモニタリング項目として設定し、これらの項目等の達成状況の調査を定期的に行いながら、有識者と市民で構成される文化芸術振興審議会による審議等を踏まえ、必要に応じて事業の見直しを行います。
新	モニタリング（計画の進行管理） 本計画では、「PDCAサイクル」の考え方に基づいた進行管理を基本とします。具体的には、施策目標の達成のために特に重要となる指標（モニタリング項目）等の推移を定期的に把握しながら、有識者と市民で構成する文化芸術振興審議会において<u>定量的・定性的双方の観点で確認を行い、それらの内容を踏まえ、必要に応じて事業の見直しを行います。</u>

その他の意見の対応内容

意見	対応内容
◆小林委員 誰もが文化に触れられるように、高齢者をはじめとしたいわゆる情報弱者への配慮が必要。また、市に安全性の高い情報を提供してもらいたい。 ◆泉水委員 情報弱者のための情報化を進めないというのではなく、デジタルコンテンツによる情報発信を積極的に進めた上で、取り残される人への手厚い支援を行うのが良い。	施策目標5、方策5-2において反映済み。 (20・21ページ)
◆川染会長 大学が指定管理者と協定を結び、地域貢献事業として公演などを実施している。方策4-4で、文化芸術活動を支える人材の育成とあるが、協力できることがあるかもしれない。	方策4-4の具体的な取組として、大学との連携についての協議等を、次期計画時に実施。
◆橋本委員 芸術文化ホールの自主事業は、多様性を重んじており素晴らしい。この方向を育ててほしい。	指定管理者業務仕様書において対応。
◆小須田委員 文化の担い手をどう継続的に育てていくかがに力を注いでほしい。	施策目標4において反映済み。 (18ページ)
◆橋本委員 文化芸術は高齢者や心身に不自由がある人でも活動が可能。このような方たち向けの変革も必要。	施策目標1、方策1-1、1-2において反映済み。 (12・13ページ)
◆明吉委員 入り口は施設の顔。シリウス1階をより文化芸術の拠点にふさわしい配置にしてはどうか。	指定管理者との連絡調整会議において委員の意見を報告済み。
◆加藤委員 教員の負担少なく指導要領にのっとった鑑賞授業パックを作成することができれば、団体は発表の場所を確保でき、学校は安価で鑑賞の機会を得られ、双方に利がある。	具体的な取組の一つとして、教育委員会と協議を実施。